

■■メールマガジン「静岡県防災」第1号■■

2016年4月 熊本地震の経験を踏まえて・・・

2016年4月14日午後9時26分に熊本地震が発生してから本日で6年。

当時、熊本県支援に入り4月16日の2度目の地震を経験した消防保安課の村井浩さんに体験を伺いました。

○押しつぶされそうな恐怖を感じた熊本地震！

Q1 地震に遭った時はどのような状況でしたか？

A1 カプセルホテルで寝ていた午前1時25分頃、激しい揺れに襲われました。

揺れの時間は数十秒でしたが、その間、崩れた建物に潰されてしまうのではないかという恐怖を感じました。ホテルロビーの靴箱はすべてドミノ倒し、壁には亀裂が入っていました。その後も余震が続き、明るくなるまで落下物などの危険が比較的少ないホテルのロビーで過ごしました。

Q2 そうした体験を通して、皆さんに伝えたいことはありますか？

A2 耐震性のある建物が私の命を守ってくれました。家屋や家具の下敷きになってしまったら、避難どころではありません。住まいの耐震化、家具等の転倒防止を徹底していただきたいと思います。また、熊本市内のコンビニでは、食料や飲料が売り切れていました。支援がすぐに届かない状況を目の当たりにしたため飲食料備蓄の重要性を痛感しました。

なお、熊本県が実施した「平成28年熊本地震に関する県民アンケート結果報告書」による熊本県民の声からも、

- ・震度7を経験した者だが、2回とも全く動けなかった。何と云って表現すればいいのか。カクテルを作るときのシェイカーの中にいるような感じ。とにかく震度7の揺れはまな板の上の鯉の状態だ。日頃から家具の固定化や上部に物を置かない等の備えが必要と痛感。
- ・熊本で地震が起きるなんて全く信じていなかった。たまたま、飲料、食べ物は持っていたのでよかった。避難所を見ましたが大変だった。特にトイレの水が不足すると最悪です。

等の回答が見られます。

こうした経験を踏まえ、日頃の備えを確認して行きましょう！！

(参考情報) ⇒の右側をインターネットで「キーワード検索」

- ・静岡県の住宅耐震化施策 ⇒ プロジェクト TOUKAI-0
- ・ローリングストック啓発チラシ ⇒ 備蓄について静岡県
- ・携帯トイレ備蓄啓発チラシ ⇒ //